

西大寺牛玉所殿 大修復事業見学会

2009年9月22日(土)

(株)金剛組

【金陵山西大寺】

- ・ 宗派：高野山真言宗別格本山
- ・ 本尊：千手観音
- ・ 創建：天平勝宝3年(751)

【牛玉所殿の概要】

- ・ 建立：拝殿一相の間⇒明治13年2月(1880)…向拝石段銘・古文書による  
本殿⇒拝殿一相の間よりも年代は少し遡るか  
奥殿⇒明治6年頃もしくは、それ以前に造られたものとみられる
- ・ 安置：牛玉所大権現  
金毘羅大権現(不動明王・毘沙門天)：明治15年に当社へ勧請
- ・ 大工：拝殿一本殿：田淵倅耕畑齋勝義…天保8—明治39年(1838—1906)  
大宮村幸地崎町：現在の岡山県東区幸地崎町

・ その他田淵の手による遺構

和気神社 (岡山県和気郡)：明治18年(1885)

浄泉寺本堂(広島県尾道市)：明治25年(1892)

・ 碑文によれば、田淵勝義は神社41棟、仏堂11棟をはじめ多数の社寺を建設したという

※奥殿は田淵勝義の手ではないと推測されるが、大工は不明

- ・ 石工：曾根清吉(児島郡宮之浦：現在の岡山市南区宮之浦)
- ・ 瓦師：拝殿一相の間⇒
  - ・ 佐々木清二郎(岡山二日市：現在の岡山市二日市町)
  - ・ 前田房次郎
  - ・ 横山孫太郎(岡山縣下御野郡七日市村：現在の岡山県井原市七日市町)

本殿⇒不明だが、拝殿一相の間とは時期が異なる可能性あり

奥殿⇒不明だが、拝殿一本殿とは異なり、「西足松」との刻印あり

【各建物の化粧材の使用材料】

- ・ 拝殿…主にケヤキだが、相の間との取合いよりマツが混ざる
- ・ 相の間…柱までケヤキ、台輪より上部はマツ(ケヤキも含む)
- ・ 本殿下層…柱2本はケヤキであとは全てマツ(組物に僅かにケヤキも含む)
- ・ 本殿上層…主にマツ(ケヤキも含む)
- ・ 奥殿…主にヒノキ(マツも含む)



## 【各建物の建立・整備経過】

当建物の問題として、度重なる諸事情により各建物が一時期に建てられたものではなく、時期をいくつかに分けて建てられ、整備された痕跡を数多く残している。以下に現段階で判明している各年代の建立経過とその根拠を記す。

〈第一期：明治6年以前(奥殿脇石段銘：明治6、狩野永朝作会陽図：明治7-10)〉

- ・ 奥殿(銕金具多用)…擬宝珠・登勾欄など未完成な点あり(内部の壇も後補か)

※ 浄財などの資金面で難があった為、工事中断及び設計変更か？

〈第一～第二期頃か〉

- ・ 本殿主体部(単体)…当初は独立した幣拝殿として計画か？縁・壁・天井・長押・鴨居・敷居・仏壇・床組なし、縁廻りの部材は加工済み
- ・ 本殿上層…17世紀後期まで遡り得る他の建物を転用し、隅木はこの時取替え(頭貫も取替か、宝珠露盤は不明)、本殿上層に載せる、使用瓦は以前から使用されていたものを再利用した可能性がある

〈第二期：明治13年まで(古文書・向拝石段銘：明治13、拝殿縁板受：明治12)〉

- ・ 拝殿…完成
- ・ 相の間…本殿とまだ繋がらず(壁・床・屋根など)手前一間まで軸部完成、天井・縁長押・建具なし(建具は拝殿と時期が異なる)

※ 地盤の沈下が原因で工事中断か？(他にも原因は考えられる)

※ この時に拝殿一相の間の柱・床組にモルタルの飼物をしたか？

〈明治13年以降に時期をあまり開けず、行われた年代不明なその他工事〉

- ・ 相の間一本殿…建物が東側に沈下しながらも縁・床・壁・貫・組物・屋根など全ての間分を連結、建具を入れる
- ・ 相の間…長押を取付け、本殿と繋いで格天井を張る
- ・ 本殿…床を張る、敷居を入れる、壁を造る、仏壇を造る、縁を張る、建具を入れる
- ・ 渡廊…拝殿西側に幅6尺(181.8cm)のものを造り、西側の客殿と連結(解体前にあったものは近年建て替えられたもの)

※ この時の大工棟梁は田淵勝義ではなく別の手が入っていたと考えられる(相の間と本殿の間の板壁墨書「東田重之」か？)

〈第三期？：明治23年(向拝獅子口銘：明治23)〉

- ・ 拝殿一向拝軒唐破風を修理・葺替か？(獅子口・鯨は他のものと異なる)

〈現在に至っても未完成な点〉

- ・ 奥殿…登勾欄(正規に納まっていない)・擬宝珠柱
- ・ 拝殿…手挟
- ・ 相の間一本殿…板壁(野材で造っている)
- ・ 本殿…板壁(野材で造っている)・長押・鴨居・天井